

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	神戸市立ひまわり学園		
○保護者評価実施期間	2024年11月1日		～ 2024年11月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 43
○従業者評価実施期間	2024年11月18日		～ 2024年11月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達 の状況について共通理解	定期的に個別懇談を実施するほか、連絡帳の活用等により、こ どもの日々の状況や課題について、保護者との共有に努めている 。父親とも懇談を実施し、共通理解を図った。	さらにこどもの発達状況や課題について、保護者との共通理 解が徹底できるように努める。
2	こどもの特性等に応じた専門性のある支援	長年の経験を活かした保育士等の専門性に加え、言語聴覚士や 作業療法士、理学療法士との連携やセンター内の医師、多職種 による連携のもと、こどもの一人一人の特性に合ったかかわり に取り組んでいる。	職員の資質向上のため、幅広い研修の参加や関係機関と事例 検討会等を積極的にを行い、具体的な支援方法の共有を図る。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他 のこどもと活動する機会	保育所との交流は肢体不自由クラスのみであり、知的発達クラ スにおいては十分に交流出来ていない。幼稚園交流においても 年長児の希望者を対象に実施した。	交流先と情報共有しながら可能な範囲で検討していく必要が ある。
2	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者 同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされてい るか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きよ うだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支 援	保護者会等の講習型は実施しているが、保護者同士の交流の機 会は十分に出来ていない。また、行事においては保護者と園児 のかかわりを中心に内容を検討しているため、きょうだい参加 できずにいる。	今後は保護者の意見を取り入れながら、交流の機会の提供を 模索していく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 神戸市立ひまわり学園

公表日 2025年 2月 14日

利用児童数 45

回収数 43

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	41	2	0	0	・十分に確保されていると思う。 ・定員相当だと思うので、これ以上児童が増えたと不安である。 ・お部屋遊び、外遊びともにのびのび過ごせていると思う。	適切なスペースを確保するとともに、使い方の工夫を行い、安全確保を徹底する。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	36	4	1	2	・たまに人数が理由で連絡帳がコピー対応の時があり、職員の大変さを感じられる。 ・職員の体制を理由に連絡帳がコピー対応している日が1か月に数回見られ、職員不足と思う。 ・不満ではないが、職員がもう少し増えると連絡帳に様子を記入してもらえるのかと期待している。 ・足りていると思うが、職員が大変そうなので十分かと言われればどちらでもない。 ・手厚くみてくれている。	国の基準に加え、必要に応じて神戸市独自の加配職員を配置していく。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	41	0	0	2	・適切で分かりやすい。 ・配慮されている。 ・教室内で活動内容毎にエリア分けされていて分かりやすい。 ・段差も少なくエレベーターもあり困っていない。	バリアフリー構造であり、視覚支援など障害の特性に応じた環境整備を行っている。適切な環境整備に努めるとともに、より使いやすい施設となるような工夫を行う。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	41	1	0	1	・トイレの数が少ない。複数人が使うトイレが1コしかない。 ・十分 ・すごく清潔で良い環境。 ・教室内にマットが敷いてあり、安全である。 ・いつも過ごしやすく整えてもらえている。	清掃および整理整頓を毎日行い、子どもが活動しやすい生活空間を確保している。引き続き、清掃および整理整頓に努めるとともに、子どもが活動しやすい空間となるような工夫を行う。
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	41	2	0	0	・一番重度のクラス担任に新入職員を配属させている。 ・リハビリの先生との連携や外部からの連携もあり、満足している。 ・一人一人の特性に合ったかわりをしていただけていると思う。 ・聞きたいことも聞きやすく、楽しく過ごせているので助かっている。	引き続き、一人ひとりの子どもの特性等に応じた適切な支援に努める。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。						
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	43	0	0	0	・相談にものってもらい、しっかり作成出来ていると思う。 ・しっかり面談で話をしたうえで作成していただけている。	子どもと保護者の状況やニーズを把握するために十分なアセスメントを実施し、支援計画を作成している。引き続き、適切なアセスメントに基づいた支援計画の作成に努める。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	42	1	0	0	・具体的に計画、設定されており分かりやすい。	児童発達支援ガイドラインで示された支援内容をもとに、一人ひとりの子どもの特性に応じた項目設定と具体的な支援内容を記載した計画の作成に努める。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	42	0	0	1	・自宅で「出来るようになった！」と実感することもある。（ひまわりの支援のおかげで） ・保護者とともに計画書を作成し、計画書に沿った支援をしていただいていると思う。	支援計画の内容に基づき、目標達成に向けた支援を行っている。引き続き、支援計画に沿った適切な支援を行う。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	38	1	0	4	・色んな場面で個別に支援してもらっている。 ・いつも色々と考えてくださるので助かっている。	他施設の取り組みや研修等で紹介された事例なども参考にしながら、随時、新たな活動プログラムを取り入れていく。引き続き、子どもたちの状況に応じて、新たな活動プログラムを取り入れ、内容が固定化しないように工夫する。

	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	28	4	4	7	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が落ち着いたばかりで交流の機会が限られているのは仕方ないと思う。 ・機会がなかっただけで予定していると待っている。年に一度案内があったが、不参加のため詳細は不明である。 ・今までにそのような機会はなかったように思う。 ・知的発達クラスと肢体クラスの交流はあるが、他の保育所等との交流は参加したことが無いのでわからない。 ・園バスで交流先の保育所へ行く機会がありバスに乗ることも保育所の子どもたちと一緒に遊ぶこともすべてが良い経験になっていると思う。 	個別に幼稚園交流を行っている児童（年長児）や一部のクラスであるが近隣保育所との交流を実施した。引き続き、可能な取り組みを模索し、地域のこどもと関わる機会を提供できるよう努める。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	43	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前の説明会で丁寧に説明していただいた。 	入園説明会や保護者勉強会を実施し、支援内容や利用者負担額等の必要事項について説明を行っている。引き続き、支援内容や利用者負担等について、利用者への丁寧でわかりやすい説明に努める。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	43	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、明確でした。 ・とても考えて計画書を作成してくれている。 ・毎回丁寧に説明を受けている。 ・毎回丁寧に説明を受けている。 ・いつも詳しく説明してくださるので、分かりやすい。 	支援計画の趣旨や支援内容について、引き続き、利用者への丁寧で分かりやすい説明に努める。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	41	0	0	2	<ul style="list-style-type: none"> ・多種あり、ありがたい。 ・多々発信してもらっているので参加したいと思う。 	保護者を対象とした研修や個別懇談を実施するほか、親子通園では日々の療育を通じて支援を行っている。引き続き、保護者の対応力の向上を図るための支援の充実に努めるとともに、支援が伝わりやすい工夫を行っている。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	42	1	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳に細かく記載されていたり、電話で情報共有いただけるのでありがたい。 ・電話、連絡帳、お迎えの時の対面など、費用に応じて出来ている。 ・細かいことも共有していただけている。 	定期的に個別懇談を実施するほか、連絡帳の活用等により、こどもの日々の状況や課題について、保護者との共有に努めている。父親とも懇談を実施し、共通理解を図った。引き続き、こどもの発達状況や課題について、保護者との共通理解が徹底できるように努める。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	38	5	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談の場では、丁寧に話を聞いてくださるので、嬉しい。 	定期的に個別懇談を実施するほか、連絡帳の活用等により、こどもの日々の状況や課題について、保護者との共有に努めている。引き続き、保護者からの相談に対して、適切な対応と必要な助言の実施に努める。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	42	1			<ul style="list-style-type: none"> ・困りごとを共有して、対処法など一緒に考えてアドバイスをくださる。 ・小さな悩み事も複数の先生方に話を聞いていただけてアドバイスをいただける。 	定期的に個別懇談を実施するほか、連絡帳の活用等により、こどもの日々の状況や課題について、保護者との共有に努めている。父親とも懇談を実施し、共通理解を図った。引き続き、こどもの発達状況や課題について、保護者との共通理解が徹底できるように努める。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	27	11	2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者（父親）交流あり、きょうだい交流なし。母親交流も特別ないが、不満はない。 ・コロナで保護者会がなくなり、兄弟も行事には参加できないので交流の会がない。 ・保護者会など家族への支援はある。 ・きょうだい同士の交流の機会は、知らない。 ・きょうだいへの支援は特はない。 ・保護者間の交流の機会は少ない。 ・兄弟デーはとても楽しんでいた。 ・祖父母デーやきょうだいデーなど交流がある。パパデーもあった。 	クラス毎の行事の中で保護者同士のつながりを持つ機会を作り、一部のクラスではきょうだい同士の交流や祖父母との交流機会を実施した。引き続き、可能な取り組みを模索し、保護者同士の連携やきょうだい等交流が促進できるように取り組みを検討していく。
	19	こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	42	1	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・装具の使用や、リハビリの先生との連携などこちらの要求や希望にもすぐに対応してくれる。 	相談や申し入れについて保護者に周知するとともに、迅速に対応し、必要な説明等を行っている。引き続き、迅速かつ適切に対応する。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	42	1	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドサインの共有や視覚カードの配布があり、十分である。 	視覚支援の観点による工夫や、連絡帳や配信ツール（れんらくーる）の活用等により、意思疎通や情報伝達が適切に行われるように配慮している。引き続き、相手方の障害特性に応じて、適切な意思疎通や情報伝達ができるように配慮を行う。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	36	2	1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のおたよりがある。 ・自分が見たことないだけかもしれない。 ・ホワイトボード（保護者用）とイラストや写真を使った時間割（子ども用）があり、分かりやすい。 	毎月、行事予定表を発行するほか、必要に応じてお知らせ文等を配布するとともに、連絡帳や配信ツール（れんらくーる）を活用している。引き続き、当所の活動内容や連絡体制等について利用者に理解を深めてもらえるように、情報発信を行っている。

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	41	0	0	2	<ul style="list-style-type: none"> ・十分である。 ・プリントやメール（れんらくーる）で発信していた。 	全職員に対して、個人情報の取扱いに関する研修を実施し、日々の業務における適切な取扱いを徹底している。引き続き、個人情報の適切な取扱いを徹底する。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	39	1	0	3	<ul style="list-style-type: none"> ・入園時に説明があり、れんらくーるの活用もされて周知されている。 	緊急対応等に関するマニュアルを作成し、職員に周知徹底するとともに、「入園のしおり」等に必要事項を記載して保護者へお知らせしている。緊急時等の対応についてのマニュアル内容については随時見直しを行い、適切な対応についての周知徹底を図る。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	41	0	0	2	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月テーマごとの避難訓練があるので適切だと思う。 ・定期的に訓練が行われている。 	近隣施設も活用しながら定期的に避難訓練等を実施している。近隣施設との間に直通の避難経路を設置し、避難が可能な状況としている。また、毎月の訓練内容については、おたよりに記載しお知らせしている。引き続き、定期的に必要な訓練を実施していくとともに、目的・内容等について保護者に周知する。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	41	1	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・安全確保優先のため連絡帳は記入が乏しい。 	全職員に対して、事故や虐待防止をはじめ研修および情報共有を実施している。また、園外での情報においても共有を図っている。引き続き、全職員に対して研修を実施し、意識向上を図る。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	40	1	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・適切である。 	保護者に連絡のうえ説明し、必要な対応を行っている。引き続き、迅速かつ適切に対応する。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	41	0	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日楽しみに通っている。 ・とても満足している。 ・到着前はドキドキするときもあるが、到着後はニコニコ笑顔（安心）。 	一人ひとりのこどもの特性等に応じた適切な支援に努めるとともに、こどもたちが安心出来る環境づくり、支援体制に努める。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	42	0	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日楽しみに通っている。 ・とても満足している。 ・とても楽しみにしている。 	こどもたちが安心して通うことが出来る環境と、日々のプログラムにおいて新たな活動プログラムを取り入れ、内容が固定化しないように工夫に努める。
	29	事業所の支援に満足していますか。	43	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・大変満足している。 ・とても満足している。 	こどもの発達状況や課題の理解、保護者との共通理解が徹底できるように努め、支援内容に反映し改善に努める。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	神戸市立ひまわり学園		公表日	2025年 2月 14日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		必要なスペースを確保している。	引き続き、適切なスペースを確保するとともに、使い方の工夫を行い、安全確保を徹底する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		国の基準に加え、神戸市独自の加配職員を配置している。	引き続き、加配職員が必要な園児には増員申請を行い、適切な職員配置に努める。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		バリアフリー構造であり、視覚支援などこども達の特性に応じた環境整備を行っている。	引き続き、適切な環境整備に努めるとともに、より使いやすい施設となるような工夫を行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃および整理整頓を毎日行い、子どもが活動しやすい生活空間を確保している。	引き続き、清掃および整理整頓に努めるとともに、子どもが活動しやすい空間となるような工夫を行う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		空き部屋を活用し、必要に応じた環境設定を作っている。	引き続き、環境設定を整え、こどもの状況に合わせた空間を作るように努める。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員の積極的な参画を促しながら、PDCAサイクルによる業務改善に努めている。	引き続き、職員の積極的な参画を促しながらPDCAサイクルによる業務改善に努める。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員間で保護者等の意向を確認する機会を設け、内容に応じて会議にて検討している。	引き続き、評価アンケート等での意見を取り入れ、業務改善につなげていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		面談等で意見を集約し、会議等にて検討うえ業務改善につなげていく取り組みを行っている。	引き続き、職員が意見を述べやすいような機会を設け、業務改善につなげていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者による外部評価は実施していない。	今後の検討課題とする。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		施設内研修や外部施設での実習を実施するとともに、他団体が主催する研修へも積極的に参加している。	研修内容等を工夫しながら、引き続き、職員の資質向上のための取り組みを行う。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	/	/	/	/
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		こどもと保護者の状況やニーズを把握するために十分なアセスメントを実施し、支援計画を作成している。	引き続き、適切なアセスメントに基づいた支援計画の作成に努める。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		各職員が連携・情報共有して、子どもの特性や発達段階等に応じた活動プログラムを立案している。	引き続き、各職員が連携して、チーム全体での活動プログラムの立案に努める。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画の内容に基づき、目標達成に向けた支援を行っている。	引き続き、支援計画に沿った適切な支援を行う。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		支援等の記録や日々の記録等を基にこどもの状況を確認している。	引き続き、様々な方法でこどもの状況を確認していく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		一人ひとりのこどもの特性に応じた支援項目を設定し、具体的な支援内容を記載した計画を作成している。	引き続き、児童発達支援ガイドラインで示す支援内容から、一人ひとりのこどもの特性に応じた支援に必要な項目を適切に選択し、具体的な支援内容の設定に努める。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		各職員が連携・情報共有して、子どもの特性や発達段階等に応じた活動プログラムを立案している。	引き続き、各職員が連携して、チーム全体での活動プログラムの立案に努める。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	他施設の取り組みや研修等で紹介された事例なども参考にしながら、随時、新たな活動プログラムを取り入れている。	引き続き、子どもたちの状況に応じて、新たな活動プログラムを取り入れ、内容が固定化しないように工夫する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	児童発達支援計画に基づき、一人ひとりのこどもの特性に応じて、必要な個別活動および集団活動を実施している。	引き続き、一人ひとりの子どもの特性に応じた適切な個別活動および集団活動を実施していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	朝礼や職員間のミーティングを通じて、日々の支援内容や職員間の役割分担、個々の子どもに対する配慮事項等についての確認を行っている。	引き続き、職員間での十分な情報共有を行い、必要事項の確認を徹底する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	終礼や職員間のミーティングを通じて、日々の支援内容や職員間の役割分担、個々の子どもに対する配慮事項等についての確認を行っている。	引き続き、職員間での十分な情報共有を行い、必要事項の確認を徹底する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	一人ひとりのこどもに応じた日々の保育のねらい、生活、特記事項として怪我や体調面等を記録し、随時、支援内容を検証するとともに、必要に応じて改善を行っている。	引き続き、日々の記録を通して支援の検証・改善に努める。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	定期的にモニタリングを実施し、子どもの状態を適切に把握したうえで、必要に応じて支援計画の内容を見直している。	引き続き、適切な時期にモニタリングを実施し、子どもの状況に応じて支援計画の見直しを行う。
	関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	子どもの状況を十分に把握した職員が、障害児相談支援事業所の相談支援専門員と情報共有している。
25		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	必要に応じて、当該児童が利用している保育所等関係機関との連携・情報共有を行っている。	引き続き、地域の関係機関と連携した支援を行っていく。
26		併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	必要に応じて併行利用や移行に向けた支援を行い、保護者の同意を得たうえで、関係機関と、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	引き続き、併行利用や移行に向けた支援を行い、関係機関との情報共有と相互理解を図っていく。
27		就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	移行先の保育所・幼稚園や学校の職員との懇談や見学会等を通じて、個々の子どもの支援内容についての情報共有を行っている。	引き続き、保育所・学校等と十分に連携して、円滑な移行支援に努める。
28		(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○	他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等との連絡会や研修等を通じて、支援内容の向上を図っている。	引き続き、他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等との連携等に努める。
29		質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○	施設内研修や外部施設への実習を実施するとともに、他団体が主催する研修を受講する機会を設けている。	引き続き、研修内容等を工夫しながら、職員の資質向上のための取り組みを行う。
30		(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	○	こども部会や地域の特別支援学校等の評価委員会に参加している。	引き続き、こども部会等に参加し、地域の関係機関との連携に努める。
31		(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			
32		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	近隣保育所との交流や個別に幼稚園交流を行っている児童もいる。	さらに、可能な取り組みを模索し、地域の中で園外のこどもと関わる機会を提供できるよう努める。
33		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	定期的に個別懇談を実施するほか、連絡帳の活用等により、子どもの日々の状況や課題について、保護者との共有に努めている。	引き続き、子どもの発達状況や課題について、保護者との共通理解が徹底できるように努める。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	保護者を対象とした研修や個別懇談を実施するほか、親子通園では日々の療育を通じて支援を行っている。	引き続き、保護者の対応力の向上を図るための支援の充実に努めるとともに、支援が伝わりやすい工夫を行っていく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	入園説明会や保護者勉強会を実施し、支援内容や利用者負担額等の必要事項について説明を行っている。	引き続き、支援内容や利用者負担等について、利用者への丁寧でわかりやすい説明に努める。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	定期的に個別懇談を実施するほか、連絡帳の活用等により、子どもの日々の状況や課題について、保護者との共有に努めている。	引き続き、子どもの発達状況や課題について、保護者との共通理解が徹底できるように努める。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	支援計画の趣旨や支援内容について、保護者が十分理解できるように説明を行い同意を得ている。	引き続き、支援計画の内容について、利用者への丁寧でわかりやすい説明に努める。

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的に個別懇談を実施するほか、連絡帳の活用等により、子どもの日々の状況や課題について、保護者との共有に努めている。	引き続き、保護者からの相談に対して、適切な対応と必要な助言の実施に努める。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		クラス毎の行事の中で保護者同士のつながりや一部のクラスではきょうだいや祖父母の交流が持てるよう支援している。	保護者の意見を聞きながらきょうだい、保護者同士の連携や交流が促進できるよう模索していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		迅速に対応し、必要な説明等を行うよう努めている。	引き続き、利用者からの相談や申し入れについては対応周知に努めるとともに、迅速かつ適切に対応する。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月、行事予定表を発行するほか、必要に応じてお知らせ文等を配布するとともに、連絡帳や配信ツール（れんらくーる）を活用している。	引き続き、活動内容や連絡体制等について利用者に理解を深めてもらえるように、情報発信を行っていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		全職員に対して、個人情報の取扱いに関する研修を実施し、日々の業務における適切な取扱いを徹底している。	引き続き、個人情報の適切な取扱いを徹底する。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		視覚支援の観点による工夫や、連絡帳や配信ツール（れんらくーる）の活用等により、意思疎通や情報伝達が適切に行われるように配慮している。	引き続き、相手方の障害特性に応じて、適切な意思疎通や情報伝達ができるように配慮を行う。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	○	公開療育や見学会は実施しているが、感染症の予防のためボランティアを受け入れたり地域住民が参加することが出来る行事の実施していない。	今後は状況を見ながら、可能な取り組みを模索し、地域に開かれた事業運営を提供できるよう努める。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		緊急対応等に関するマニュアルを作成し、職員に周知徹底するとともに、「入園のしおり」等に必要事項を記載して保護者へお知らせしている。また、近隣施設も活用しながら定期的に避難訓練等を実施している。近隣施設との間に直通の避難経路を設置し、避難が可能な状況としている。	緊急時等の対応についてのマニュアル内容については随時見直しを行い、適切な対応についての周知徹底を図る。また、定期的に必要な訓練を実施していくとともに、目的・内容等について保護者に周知する。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し、近隣施設も活用しながら定期的に避難訓練等を実施している。近隣施設との間に直通の避難経路を設置し、避難が可能な状況としている。	さまざまな災害の発生に備え、目的・内容を随時検討し必要な訓練を実施していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		看護師による入園前の確認や入園後の保護者からの聞き取りにより、こどもの健康面について日々確認、周知している。	引き続き、適切にこどもの健康状態を確認し、必要な情報共有を行う。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーのある子どもに対しては、保護者からの聞き取りと医師の指示に基づいて、適切な対応を行っている。	引き続き、子どものアレルギー状況についての十分な把握と、医師の指示に基づいた適切な対応に努める。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、研修や訓練等を行い、十分な安全管理の中で支援を行っている。	引き続き、研修や訓練等を行い、安全管理が十分された中で支援に努める。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		連絡帳やれんらくーるを活用し、取組内容を家族等へ周知している。	引き続き、こどもの安全確保に関しての取組内容について、連絡帳等で周知していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		該当する事例が発生した場合は、ヒヤリハット報告書を作成し、事業所内で共有を徹底し、再発防止に努めている。また、外部での事例についても共有している。	引き続き、ヒヤリハット事例の共有を徹底し、事故の発生防止に努める。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		全職員に対して、虐待防止のための研修を実施している。また、神戸市立児童発達支援センターの園長による虐待防止委員会を開催し、情報共有を図っている。	引き続き、全職員に対して虐待防止のための研修を実施し、意識向上を図る。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		やむを得ずに行う場合は組織的な決定に基づくものとするとともに、保護者に事前に十分に説明して了解を得た上で、支援計画に記載する。	引き続き、適切な取り扱いを行う。	